総

説

チャノホソガの効率的な防除に向けて

鹿児島県農業開発総合センター茶業部 上

むろ **室** たけし **聞|***

はじめに

チャノホソガ Caloptilia theivora (Walsingham) (図-1) は、老齢幼虫がチャの新葉を三角形に巻葉する(以下、 三角巻葉、さんかくけんよう)(南川・植田、1960)(図-2)。三角巻葉を含む新芽から製造された茶は、巻葉内に 排出された虫糞(図-3)の影響で浸出液が赤みを帯び、 製品の品質を落とすこと(小泊、1975)から、本種はチ ャの重要害虫となっている。本種はこれまで室内飼育が 困難で、発育ステージが揃った虫を十分に準備できなか ったため (上室, 2017), 交尾や産卵に関する基礎的な 生態はもちろん、薬剤ごとの高い殺虫活性を示す発育ス テージが不明であり、薬剤感受性検定法も未確立であっ た。そのため、本種に対するこれまでの防除時期は一律 に新芽の 0.5~1 葉期で、本種の生態や各種薬剤の特徴を 十分に踏まえておらず、結果として三角巻葉の形成を防 ぐことのみが目的となっていた。しかし近年、チャ葉の 寿命を延ばし、餌を交換することなく本種を葉縁巻葉期 (幼虫の生育に伴い葉の縁を巻く時期) まで飼育する方 法が開発され(坂巻ら、2011)、本種の室内における累 代飼育が可能となった(上室, 2017)。これに伴い本種 の交尾・産卵行動など生態の一部や卵から成虫までの各 発育ステージにおける各種薬剤の効果、鹿児島県内の各 地域個体群の薬剤感受性等が明らかになり、これらの知 見を基に各種薬剤の特徴を踏まえた効率的な防除時期, 各地域の実情に合った薬剤の選択が可能となり、また、 将来的な生物的防除や物理的防除につながる知見を得る ことができた。本稿では、その概略を紹介する。内容の 詳細については上室(2019)を参考にされたい。なお、 本内容の一部は地域戦略プロジェクト「一番茶の海外輸 出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証 | (2016~ 2018) として実施した。

Study of Efficient Control for the Tea Leafroller, *Caloptilia theivora* Walsingham). By Takeshi Kammuro

(キーワード:チャノホソガ,チャ,殺虫剤,薬剤感受性,防除)*現所属:鹿児島県農業開発総合センター大隅支場



図-1 チャノホソガ成虫



図-2 チャノホソガ老齢幼虫により三角形に巻葉された三角葉巻



図-3 三角巻葉内の老齢幼虫 右上の丸い粒が虫糞.